

# 週刊新潮

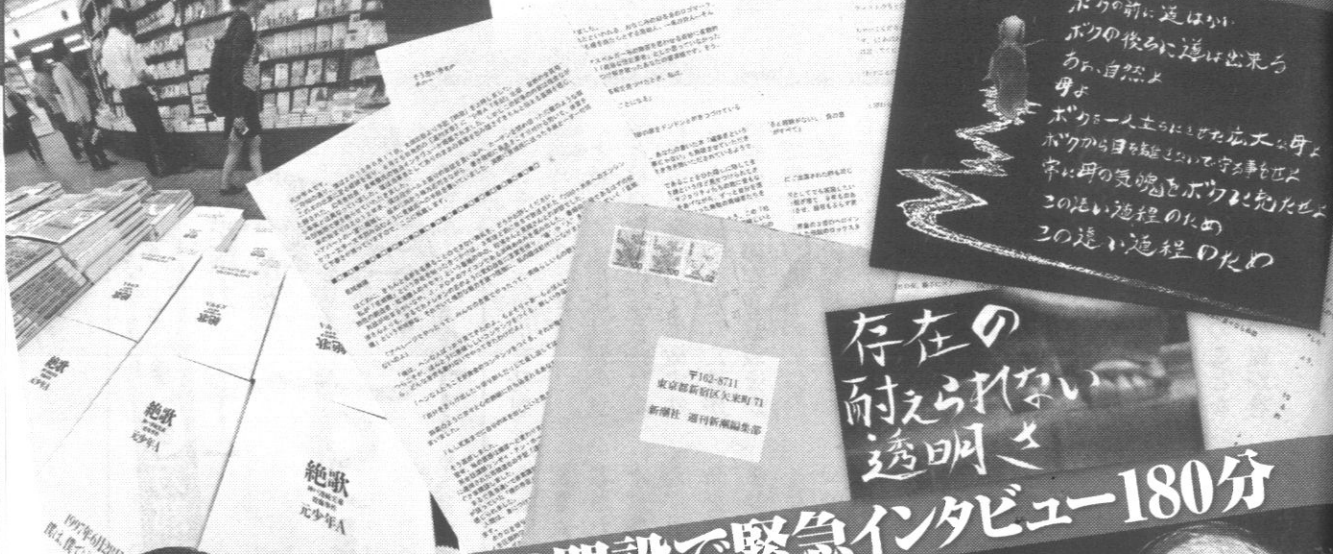
9月24日菊咲月増大号

特別  
定価 420円

特集  
「殺人老人ホーム」  
暴虐の日常



36



不気味HP開設で緊急インタビュー180分

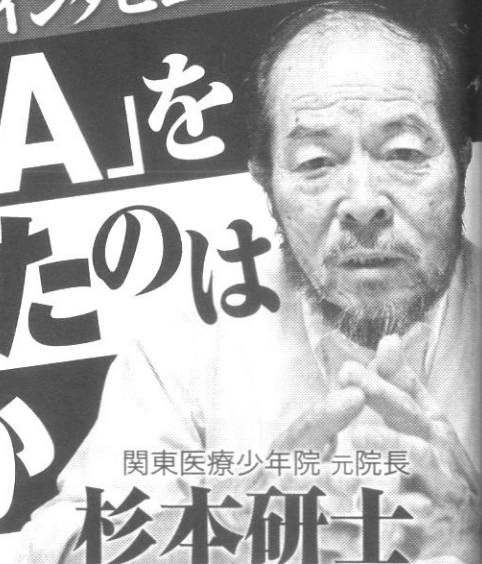
7年2か月の更生期間が「少年A」を水の泡

# 闇に戻したのは誰か

特集

関東医療少年院 元院長

## 杉本研士



罪を背負うべきなのは……(見城社長・左と岡社長)

再び、モンスターと化してしまふ危険性が高まっている。「絶歌」を出版したために、「元少年A」の7年2カ月にわたる更生期間は水の泡と帰した。かつて更生に携わった、杉本研士・関東医療少年院元院長(76)が、闇に戻した張本人について、180分の独白!

神戸連続児童殺傷事件から、すでに18年が経ち、徐々に少年Aは、自らの犯した罪に向き合えるようになっていました。

遺族に対し、わずかといえ賠償金を支払い、年に1回、被害者の命日が近づくと、謝罪の手紙も送っていた。しかも、その内容からは反省の意思が感じられるという遺族のコメントが新聞紙面に掲載されるようにもなりました。

時間をかけながらも、順調な経過を辿っていたはずだった。

関東医療少年院を後にしてから現在まで、彼は心の闇を抱え続けていたわけではありません。だが、「絶歌」の出版をきっかけにし

ですべてが台無しになり、彼の歩んできた更生の道のはずりは水泡に帰した。

本来ならば、幻冬舎の見城徹社長は、遺族の了承を得たうえで実名で出版すると提案すべきでした。

週刊新潮などに送られてきた手紙によれば、少年Aは、一旦、「関係者を悲しませたくない。出版を諦めず」と、消極的な姿勢を見せている。そこからは、遺族の心情を慮ろうとする共感性がうかがえます。しかし、見城社長は「出版を断念すれば活字文化の衰退になる」とまで言い切り、彼を出版へと駆り立てている。

むしろ、そこには、元少年Aの手記を出せばベストセラーになるのは間違いな

1939年6月29日、長野県生まれ、信州大学医学部卒。法務省矯正局矯正医官として府中刑務所や関東医療少年院などに勤務。92年より神奈川医療少年院院長、98年、関東医療少年院院長に就任し、2005年に退官。

著書

累計2000万部!

「決定版カーネギー」

D・カーネギーが辿り着いた「人前で自信をもって話す」秘訣!!

# 話す力

自分の言葉を引き出す方法

D・カーネギー

東条健一「訳」

●定価(本体1300円+税) / 新潮社

どうすれば人前に入る恐怖を克服できるのか。7千人以上に教えてきた著者による具体的で本質的なアドバイスが満載。数多の名スピーカーが学んだ名著の新訳決定版。

# 話す力

自分の言葉を引き出す方法

D・カーネギー

著書累計2,000万部 コミュニケーションの秘訣



著書累計2,000万部 コミュニケーションの秘訣

いと商業主義的な発想もあつたはずだ。

とはいえ、出版社側の意図とは裏腹に、『絶歌』はこれまで息を潜めて生活することを余儀なくされた彼が、いわば自らの存在意義をかけて書き上げたもの。

だからこそ、彼自身をして、『究極の「少年A本」』と言わしめているわけだ。

彼なりに全身全霊を傾けて書き上げた手記は出版社からおだてられ、褒めちぎられたに違いありません。きつと、彼自身も世間から拍手喝采を浴びることを疑わなかった。

ところが、当然のことながら、パッシングの嵐が巻

き起こり、土師淳くんのお父さんからは「息子は2度

殺された」と非難されました。自ら招いたこととはいえ、予想だにできなかった反発を受けたために過度なストレスがかかり、彼の奥深くに眠っていた攻撃的、挑戦的な性格が呼び起こされた。事実、それが発露されたのが、見城社長を告発する週刊新潮などへの手紙、さらには、自身のホームペ

## 兄役の法務教官

1997年6月、少年Aは逮捕され、少年審判を経て、その年の10月には、関東医療少年院に収容されま

ージの開設だと言えます。誰からも『絶歌』が認められなかったことから自尊心を傷つけられ、孤独の海に再び放り出された心境に陥っている。その反動で、自己顕示欲が膨れ上がり、幼児性ナルシズムが前面に現れてきているようにしか見えません。『絶歌』の出版を機に、彼の精神状態は退行を始めてしまったのです。

害、性的サディズム障害による3つの症状を抱えていました。愛着障害は母親との関係に起因し、他の2つは遺伝子レベルの欠陥です。彼の母親の場合、恒常的な虐待などが見受けられなかったものの、生後1カ月の子どもにトイレで用を足させようとしたり、通常よりも離乳が早かったうえに、乳幼児には刺激の強い生卵を与えて蕁麻疹を患わせたりもしていた。適切なスキンシップに欠けていました。さらに、性的サディズムについては、生来、人間と

は前頭葉がブレイキをかけるものですが、彼の場合、それがうまく作用していません。結果、性的興奮と攻撃的サディズムが生じたのです。それだけでなく、彼自身が『絶歌』で初めて明かしたのですが、10歳のときに祖母という最愛の人物を喪い、その直後、痛みの伴った自慰行為を経験している。それが、愛着障害と性的サディズムが複雑に絡み合う原因になった。

私が関東医療少年院で、彼に接し始めたころは非常に危険な状態で、24時間カメラが回っている部屋で監視されていました。

実際、陶芸の授業では、性的サディズムのエネルギ

ーが迸る、異様に牙が巨大な怪物や極端に口を大きく開けたワニのような動物の頭などを制作した。

時には、攻撃的な眼差しで、「早く、殺してくれ」と口走り、家族との面会も2年ほど拒絶し続けたのです。障害を克服する治療法として、疑似家族というものを

をつくり、他者との共感性を育ませようとした。

男女の精神科医が父親役、母親役を務めていたことはこれまでも報じられてい

ますが、実は、若い法務教官が兄の役を担っていた。

あるとき、その法務教官が「相撲をやるか?」と聞いたら、彼は「いいですよ」と乗ってきた。中庭の芝生で取組を始めると、彼は何度投げ飛ばされても起き上がり、相手に挑んでいきました。最後はヘトヘトになって、2人で芝生に寝転がった。

ほかに、彼の担当教官というのが、まさに熱血漢を絵に描いたような人物だった。彼の前で涙を流しながら、「俺も、(被害者の山下)彩花ちゃんくらいの娘がいてな。事件のことを考えると、夜も眠れないんだよ。なんで、あんなことをしたんだ!」と、語りかけるのです。彼にとつては、父親

役の精神科医よりも、担当教官の方がよほど父親役に近かったかもしれない。

更生の度合いが進んでくると、ロールレタリングという授業を取り入れられた。被害者の土師淳くん立場になり、加害者の自分に向けた手紙を書かせるの

です。

併せて、被害者の遺族が書いた本に繰り返し目を通させ、その都度、感想文を提出させたりもした。

最初は、「すみませんでした」という単純な謝罪の言葉だけだったのに、だんだんと「自分という1人の生命が、他の生命を奪っているのか」と、書き記すほど

## 以外の人間

殺人や強姦など重罪を犯した少年は、特別な処遇が必要とされるG3というカテゴリーに区分けされる。

ただ、その少年でも医療少年院に入れられるのは長くても2年です。少年Aの場合は、7年2カ月という長期にわたった。確かに、遺伝子レベルの彼の障害は完治が難しいとはいえ、社会性を身に付けたと判断でき

るだけの治療効果はありました。その証拠に、関東医療少年院を出てから11年余り、なんの問題も起こしていない。

に成長しました。

なおかつ、母親との関係にも改善が見られるようになった。当初は、面会に訪れた母親に「帰れ! 豚!」と暴言を吐いていましたが、そのうち、体育館で一緒に卓球に興じるまでになりました。愛着障害の原因となった母親と、共感性を醸成させることができたのです。

しかし、『絶歌』がそれを一変させ、少年Aを闇に戻してしまいました。

彼が公開したホームページに、高村光太郎の『道程』の一節を引用して、「ボクの前に道はない。ボクの後ろに道は出来る」と記したセルフポートレートが掲載されている。

そこに見て取れるのは、過去を切り捨て、未来は自分の手で切り開くとしつつ、孤独に追い込んだ周囲に対する挑戦的な姿勢です。そのうえで、大量のナメクジに塩水を浴びせかけて制作

したカラージュを目にしたときには、「危険だ。ナメクジの段階で済むだろうか」と心配になりました。

他でもないナメクジの解剖が、彼の性的サディズムに基づく最初の行動だったのです。抑え込んだはずのマグマが爆発し、なにもかも無駄になってしまふ怖れも出てきた。

また、パリ人肉殺人の佐川一政氏と自分とを、以外という言葉で、一括りにしている件がある。それは、自らと違う、以内の人間は排除するという意味です。もはや、以内の側の人間が何を言っても聞く耳を持つことはない。

おそらく、彼が、以内に留まっていたのは、出版を一旦諦めようとしたときが最後だった。そこから弾き出した見城社長や実際に手記を発行した太田出版の岡聡社長の罪は決して軽くはありません。

更生期間を終えた彼に、今となつては手を差し伸べる手段はないのです。

関東医療少年院への移送

